

道 徳 指 導 案

日 時 平成28年7月25日(月) 2校時
児 童 5年生
授業者
場 所

- 1 主題名 「本当の自由とは…」 【A 善悪の判断, 自律, 自由と責任】
- 2 資料名 「うばわれた自由」(『私たちの道徳 小学校5・6年』)
- 3 主題設定の理由
(1) 主題・資料

小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編 高学年 【A 善悪の判断, 自律, 自由と責任】 『自由を大切にし, 自律的に判断し, 責任のある行動をすること』

この段階においては、自主的に考え、行動しようとする傾向が強まる時期である。一方で、自由の捉え違いをして相手や周りのことを考えず自分勝手な振る舞いをしてしまうことも見られる。また、自律的で責任のある行動をすることの意味やよさが分かりにくい児童もいる。指導に当たっては、自由と自分勝手との違いや、自由だからこそできることやそのよさを考えたりして、自由な考えや行動のもつ意味やその大切さを実感できるようにすることが大切である。また、自由に伴う自己責任の大きさについては、自分の意志で考え判断し行動しなければならない場面やその後の影響を考えることなどを通して、多面的・多角的に理解できるようにすることが重要である。そのことが、自らの自律的で責任のある行動についてのよさの理解を一層深めることにつながる。

内容項目【A 善悪の判断, 自律, 自由と責任】は、本校においては5年生で1回、6年生で1回の設定となっている(低学年は6回, 中学年は4回の設定)。6年間で12回設定していることから、発達の段階を考慮しながら計画的・発展的に指導をしていく必要がある(本時は11回目にあたる)。

今回扱う資料は「うばわれた自由」(『私たちの道徳 5・6年』)である。資料は大きく二つの場面で構成されている。概要は以下のようにになっている(『私たちの道徳』活用のための指導資料(小学校)より引用)。

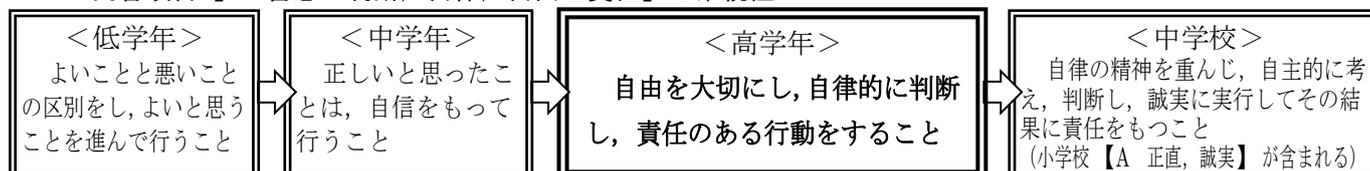
- ①自分の思いのままに行動することが自由であると思っているジェラルに、森の番人ガリューがその考えの誤りを諭すが、ジェラルは全く聞き入れず、ガリューを牢に入れてしまうという場面
- ②ジェラル自身が、国内の乱れが元で囚われの身となり、改めて本当の自由の大切さについて考えるという場面

本資料は、ジェラルとガリューのやり取りから、二人の生き方を考えることを通して、自由の大切さ、規律ある行動の意義等について考えることができる資料となっている。

- (2) 児童観

省 略

4 内容項目【A 善悪の判断, 自律, 自由と責任】の系統性



5 高学年【A 善悪の判断, 自律, 自由と責任】のキーワード

※小学校学習指導要領解説特別の教科道徳編をもとに, 内容項目内のキーワードを整理したもの

☆**自由**: 自主的に考え, 行動しようとする, または行動すること。自らの意思によって行動し
 ああああながらも, そこには内から自覚された責任感の支えによって, 自ら信じることに従って,
 ああああ自律的に判断し, 実行するという自律性が伴っていなければならないもの。

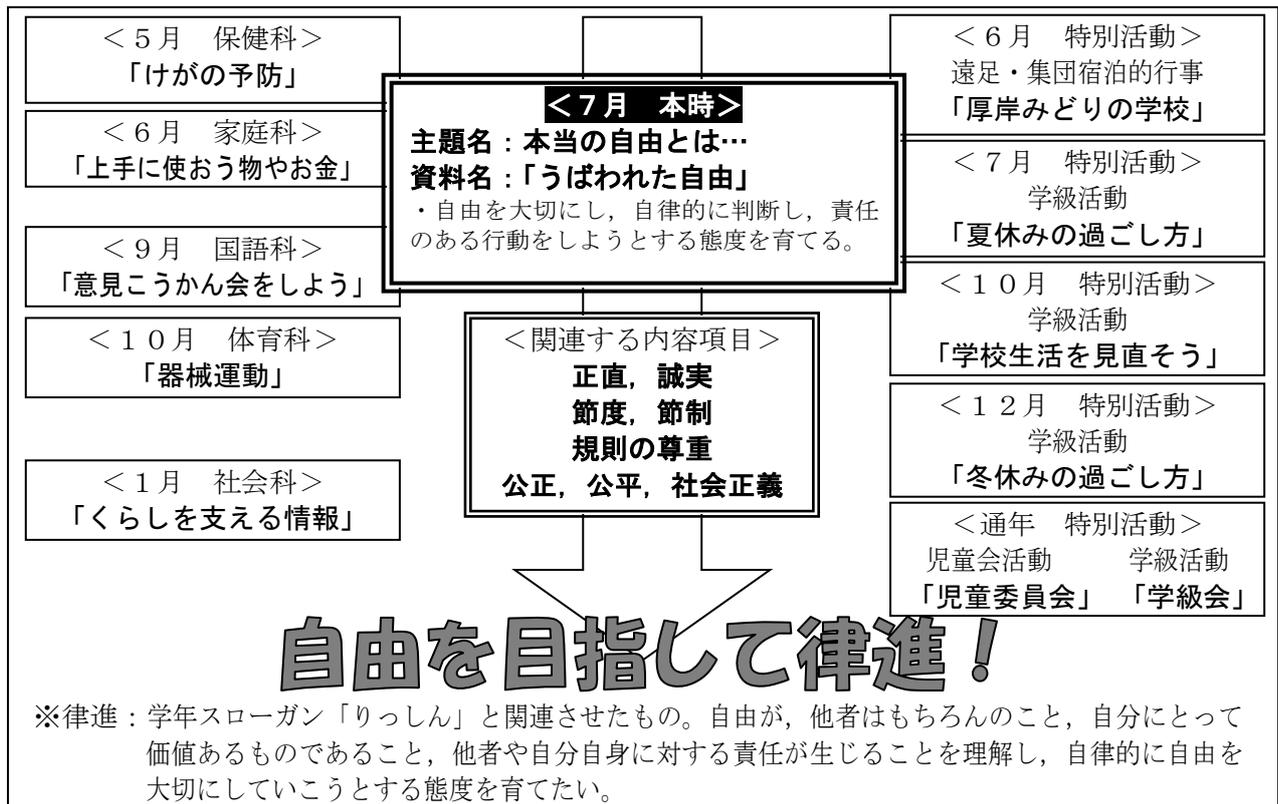
☆**自主的**: 他者に依存することなく, 他者に責任転嫁することもなく, 自らの考えと責任において行
 ああああ動すること(「生徒指導提要」より)。

☆**自律的**: 自分の欲求や衝動をそのまま表出したり行動に移したりするのではなく, 必要に応じて抑
 えたり, 計画的に行動することを促したりする資質(「生徒指導提要」より)。

☆**責任**: 自分が引き受けて行わなければならない義務。自分が関わった事柄や行為から生じる, 生
 じた結果に対して負う義務。「人に対する責任」と「自分自身に対する責任」の大きく二つ
 の側面がある。

6 第5学年における評価の視点(見取りの場, 見取りの蓄積)

※道徳教育との関連～道徳教育全体計画別業: 道徳的学び「善悪の判断, 自律, 自由と責任」に関わって～



児童の道徳性の評価方法

- ①「5 高学年【A 善悪の判断, 自律, 自由と責任】のキーワード」をもとに, 各教科, 特別活動等での具体的な姿を見取り, 価値付けしていくとともに, 記録化していく。「善悪の判断, 自律, 自由と責任」と関連する内容項目「正直, 誠実」「節度, 節制」「規則の尊重」「公正, 公平, 社会正義」の視点も含めた総合的な評価をしていく。
- ②個人目標(9月までという設定で, 学校目標に準拠する形で設定しているもの)の自己評価や, 特別活動における目標と自己評価から成長や課題を見取り, 価値付けしたり, 励ましたりしていく。
- ③道徳科の授業における表現(表情, 発言, 記述等)や『私たちの道徳』の取組等と, 上記2点を関連させながら, 個に応じた成長の見取りを行う。内面と実践の相互の見取りを通して, 個人内評価を行っていく。

授業評価方法

- ①道徳科教科論 6 ページ目「4 評価について」及び本時案(授業評価の視点)参照

7 本時について

(1) 本時のねらい

ガリユーとジェラール, 二人の行為ややり取りから, 奪われた自由は同じ自由なのか, 自由に必要なものとは何なのか, 本当の自由とはどういったものなのか等について考え交流することを通して, 自由を支える価値, 自由と責任の関係, 自律的であることの大切さ, 難しさ等について, 自分なりの考えを持つことで, 自由を大切にし, 自律的に判断し, 責任のある行動をしようとする態度を育てる。

(2) 研究とのかかわり (手立ての具体と意図)

導入における「空所」「ずれ」「テーマ」等の提示 ～Ⅰ 状況的興味の喚起・維持を促すために

★**テーマの提示**：「みなさんが大人になる頃、自由が全くない社会になっていたらどうしますか？」

★**資料提示前**：資料の題名のみ提示し「自由を奪われたことはありますか？」

：「資料の中で自由が奪われている人がいます。探しながら聞いてください。」

導入時、未来を想像させることで、それぞれが考える「自由」という価値に対する捉えを確認するとともに、Ⅲの手立てと関連させることで、授業を通して変容した自分の姿に気付けるようにもしていきたい。

その後、資料の題名「うばわれた自由」のみを提示し、自由を奪われたことがあるか否かを問う。自分なりの「自由」という捉えを、「奪われた」というフレーズを付加することで、より自分事として捉えられるようにし、主題への問題意識の芽生えをねらうとともに、資料の中に、自由が奪われた人物がいることを伝えることで資料への興味関心を高めていく。

立場や立ち位置を明確にする指導過程 ～Ⅰ－(1) 内的活動の高まりを促すために

★**3人交流、全体交流、問い返し**：「自由を奪われたのは誰ですか？」

「奪われた自由は全く同じものですか？」「違いは何ですか？」

「奪われる前の自由は、本当の自由ですか？」など

自由という概念について話し合うことになるため、段階を追って全体で論点を整理していく必要がある。そこで、資料の状況把握を促す目的も含め、自由が奪われたのは誰かを問い、3人交流や全体交流を行っていく。資料の状況から判断できる材料を整理していく中で、二人（もしくはジェラル）には自由があったのか、同じ自由なのか、本当の自由なのか、といった視点で問い返しを行うことで、本時のテーマに対する問題意識を高めていき、「姿①主題にかかわる問題意識を持つ子供」を目指すとともに、中心発問場面へと児童の思考を焦点化していく。

中心発問の吟味 ～Ⅱ 個人的興味の出現を促すために

★**中心発問**：「本当の自由を知っているのはガリユールとジェラルのどちらだと思いますか？」

★**補助発問**：「ジェラルは、いつ本当の自由を知ったのですか？」など

子供たちがねらいとする道徳的価値についての考えを深めたり、物事を多面的・多角的に考えたりすることができるよう、ねらいに迫る中心発問と、それを補助する発問を吟味する。

Ⅰ－(1)での交流から、板書等を活用しながら、中心発問場面へと焦点化していく。中心発問では、ガリユールとジェラル(人物の行為及び二人のやりとりなど)を改めて俯瞰して見つめることへとつなげ、本時のねらいである「自由を支える価値」「自由と責任の関係」「自律的であることの大切さ、難しさ」等について気付いていけるようにする。

また、状況に応じて補助発問を行い、ジェラルが本当の自由を知った経緯を確認することで、自由を捉え違えていたジェラルと、本当の自由に気付いたジェラルを対比的に捉え、自由を支える価値等を目を向けるようにしていく。

立場や立ち位置を明確にする指導過程 ～Ⅱ－(1) 内的活動の高まりを促すために

★**3人交流**：④自分の現状への気付き、⑤新たな視点の獲得

状況に応じて、3人での交流の場を設定する。これは、自分の現段階での考えを整理することや新たな視点を獲得することを目的とした場合に講じることとする。

★**書く活動**：自分の考えを整理する手段としての活用

状況に応じて、書く活動を設定する。その際、上記3人交流との関連を図りながら、自分の考えを整理したり、新たな視点の獲得を自覚したりすることができるようにする。

★**問い返し**：個の発言を全体に意識的に還元する目的、根拠の部分を深める目的、具体例を用いさせることで自己理解を深める目的、限定することで思考を広げる目的など

例「本当の自由に必要なものとは何？」「偽物の自由もあるのか？」「本当の自由を見たことがあるか」

状況に応じて(客観的・分析的な交流に終始している場合)、問い返しを行う。その際、資料場面から現実世界へと立ち位置を変化させていくことを大きなねらいとしていく。自由を支える価値や、偽物の自由について考えることを通して、導入時に考えていたものや、これまでの生活で感じたり、考えたりしていたことと比較できるようにすることで、「姿②道徳的価値についての考えを深めたり、物事を多面的・多角的に考えたりする子供」を目指していく。

価値の一般化を促す発問の工夫 ～Ⅲ 発達した個人的興味の出現を促すために

★**基本発問**：「みなさんが大切にしていきたい自由とはどのようなものですか？」

Ⅱ－(1)を通して考えが深まった「自由」を俯瞰して捉えなおす目的と、これからの自己の生き方について考えることを目的とした発問を行う。また、導入時に提示したテーマと関連させながら、どのような自由がある社会を望むのかについても考えられるようにもしていく。資料を通して考えた「自由」の中で、自分にとって価値ある自由について考えることで、「姿③自己の生き方や人間としての生き方についての考えを深めていく子供」を目指していく。

道徳的実践意欲を喚起する終末の工夫 ～Ⅲ－(2) 内的活動の高まりを促すために

★**資料提示**：年度初めにとったアンケート結果の中から「自由」に関する結果を提示する。

年度初めに実施したアンケート結果から、「自由」に関する回答を提示し、本授業で考えた大切にしていきたい自由との相違点や共通点を問うことで、授業を通して「自由」に対する考えが深化したことを実感できるようにしたい。

